

# 会報

## 無肥研だより

### 第8号

2019年9月15日 発行



(片木明氏茶園見学会)

「無肥研だより」第8号をお届けいたします。今回は8月4日に開催いたしました、茶園を中心とする圃場見学会、6月29日の宇治支援学校の生徒さん達への無施肥無農薬栽培茶の話、及び前々号から続くお茶生産者の紹介をさせていただきます。お茶特集号といった感じになりました。さらに、7月1日付けにて待望の「認定NPO法人」の認定を、京都市から受けましたことをご報告させていただきます。

## ★ 活動報告

### 無施肥圃場見学会 (2019年8月4日)

#### 1. 小倉無肥研試験圃場 (京都府宇治市小倉)

小倉圃場は2003年より無施肥無農薬栽培(以下「無施肥栽培」いう)のO水田(25a)と滋賀県栗東町(現栗東市)にて1951年より無施肥栽培を継続していた水田の表土を移設したR水田(10a)および畑(10a)からなっており、水田内には無肥研による①耕起回数の違いが生育・収量に及ぼす影響と、②品種の違いが生育・収量に及ぼす影響の



調査試験区が防鳥用ネットを張って設けられています。また、奈良先端科学技術大学院大学によるイネの栄養吸収、成長や環境適応に寄与する共生微生物の活用を調べる試験区も設けられています。白岩副理事長から試験に関する解説がありました。畑作については、小林理事からナス、カボチャ、トウガラシ、キュウリ、マクワウリ、スイカなどが栽培されており、ナスの接木比較試験などが行われていると説明がありました。

#### 2. 上嶋伯協氏茶園 (京都府綴喜郡井手町)



1998年より無施肥栽培を継続され、コマカゲを栽培している24aの茶園と碾茶工場を見学しました。生産者の上嶋伯協(のりやす)さんのお話では「無施肥のお茶は香りが全然違います。慣行栽培のお茶はどうしても肥料の味やにおいがします。収量は無施肥栽培にして25%程度ダウンとなりましたが、そのままの収量を安定的に維持しています。一番茶に限って言うと一番茶は根や茎にたまった養分を使うので慣行栽培の収量とほぼ同じです。

今年は5月8日の遅霜の被害が大きかったので心配しましたが、結果的には例年と変わらない収量がありました。病虫害もほとんどなく、茶の木を無施肥栽培にすることにより、自然の状態になって忌避効果がある状態に戻るのではないかと思います。近年、消費者の嗜好が変わって、煎茶の需要が減ってきているので工夫をしていく必要があります」とのことでした。



### 3. 片木明氏茶園（滋賀県甲賀市信楽町）



茶園は2005年より無施肥栽培の在来種実生園 5.7a と2007年より無施肥栽培のヤブキタ園 15a からなりますが、今回はヤブキタ園を見学しました。生産者の片木明さんのお話では「茶園のある朝宮は1200年の歴史を持つお茶の産地で、この風土がお茶づくりに非常に適しています。煎茶のほか抹茶や紅茶にして出荷しています。無施肥栽培に切り替えることに最初は不安がありましたが、全くとれない年は1回もありませんでした。今年の5月8日の遅霜により朝

宮地区では収量が3割減になる被害がありましたが、無施肥茶園は、その後の回復により、2割程度の減収に止まりました。無施肥栽培は自然に耐えられる力があると感じました。病虫害にも強く、茶の木も元気です」とのことでした。終了後、片木様にご用意頂いた無施肥栽培の冷えたお茶を試飲させて頂きました。とても美味しくいただきました。また、帰路の車中では小倉圃場でとれたスイカを少しですが試食していただきました。



### 京都府立宇治支援学校に於いて無施肥栽培茶の授業（2019年6月29日）

今年(2019年)4月25日に京都府立宇治支援学校地域学習支援担当の方が小米茶園にお見えになり、同校の生徒さんの授業で無施肥栽培のお茶に関する話をしてもらえないかとの依頼がありました。事前に無施肥栽培茶の店を調べてお願いに来られたとのことでした。小米茶園では無施肥無農薬栽培の普及・啓発、地域貢献の一助となればとの思いから承諾をされました。



6月26日、京都は観測史上最も遅い梅雨入りとなったその日、小米茶園代表小野豊氏、二見弘子無肥研理事と日本茶アドバイザーの資格を持つ巖田早映氏は、3種類の無施肥栽培の茶葉と前日に用意した茶葉が付いた見本用の枝を持って学校へ向いました。教室には重度の障害のある中学生の生徒達6人と先生方が待っておられました。最初に無施肥栽培茶について、「この茶葉は薬も肥料も何も使っていない。太陽の光と空から降ってくる雨の水と土の力で、みんなが住んでいる地球にも優しい作り方で育ったんだよ」と説明して、一人ひとりに用意した

煎茶、ほうじ茶、玄米茶の茶葉を実際に見て、触れて、香りを感じてもらいました。思うように手を動かすことが難しい生徒達が、先生の手を借りて感触を確かめている姿を見て、先生方も生徒達の表情の変化に大変びっくりしておられました。



生徒達も次第に打ち解けてこれ、自分達で玄米茶のブレンドにも挑戦してもらいました。最後に温かいお茶、水出し煎茶、自分達がブレンドした玄米茶を飲んで頂いたときは、生徒達をはじめ、先生方にも大変喜んで頂きました。中には「今まで飲んでいた玄米茶は何だったんだろう」と驚いておられる先生もいらっしゃいました。地域学習支援担当の先生から「生徒達の表情、仕草など見ていて、大変喜んでいいる様子がよくわかりました。来ていただいて本当に良かった。来年も機会があれば是非来ていただけたらうれしいです」と言って頂き、3人は晴々とした思いで学校を後にしました。

## ★ 生産者紹介

### 無施肥無農薬栽培茶園 実施者

#### たつみ茶園

生産者	: 巽 直弥
生産地	: 奈良県奈良市月ヶ瀬
茶園経営規模	: 6.0 ha
無施肥無農薬栽培面積	: 45.0 a
実施開始年	: ①2007年、②2009年
栽培品種	: ①ヤブキタ、②ヤブキタ(実生)



茶園は2007年から開始した30aの①園と、2009年から開始した15aの②園2カ所に分かれています。①園は、18年間慣行栽培を続けていた茶園を2007年に無施肥無農薬栽培に切り替えました。現在は10日間寒冷紗で被覆をし、かぶせ茶として出荷しています。1番茶を5月25日に摘採し、その後は2番茶を穫らないで放置し、次年の春に刈り揃えて1番茶に備えます。



②園は1964年にヤブキタから取った実を直播した慣行栽培茶園を、2009年に無施肥無農薬栽培に切り替えた茶園です。②園もかぶせ茶として、5月25日に1番茶を摘採し出荷しました。2番茶は穫らないで①園と同様次年の春に刈り揃え1番茶に備えます。除草は手作業で行いますが、他の茶園の作業に追われ秋以後になってしまいます。2019年は、①②とも5月8日に霜の被害を受け、例年より収量が少なくなりました。①園は生葉で100kg/10aで、②園は生葉で100kg/10aを少し超えたくらいでした。

## ★ 認定NPO法人として新たなスタート

無肥研は、初代理事長竹内史郎先生と本年2月に急逝されました前副理事長栗田光雄氏のご尽力によりまして、2000（平成12年）年8月3日に京都府の認証を受けて、「特定非営利活動法人無施肥無農薬栽培調査研究会」として、無施肥無農薬栽培を主とする環境保全型農業の啓発・普及をめざし、皆様方の温かいご支援の下、今日まで活動を続けて参りました。

このたび、2019（令和元年）年7月1日付けにて現所轄庁であります京都市から、「認定NPO法人」として認定をいただき、7月12日に京都市役所におきまして



認定書の交付式が行われました。ここに無肥研は「認定 NPO 法人」として、新たな一步を踏み出させて頂くこととなりました。認定 NPO 法人とは、その運営組織及び事業活動が適正であって、公益の増進に資するものとして、高い公益認定基準に適合した法人だけが認定を受けることができるものです。京都市には 7 月 1 日現在で NPO 法人が約 840 法人ありますが、そのうち、認定 NPO は 27 法人のみで全体の約 3%しか認定されていません。これもひとえに皆様方の温かいご支援の賜物と感謝いたしております。

また、認定 NPO 法人になりましたことに伴い、今後ご寄付いただいた場合は、確定申告により税制上の優遇措置が適用され、寄附金控除を受けることができるようになりました。詳しくは同封の「寄附の税制優遇措置（寄附金控除）について」をご覧ください。何かご不明な点がありましたら下記へお尋ねください。

お問合せ先 電話：075-334-8058

e-mail：mail@muhiken.or.jp

無肥研はこれからも無施肥無農薬栽培の啓発・普及に努めて参ります。皆様方におかれましても、より一層のご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

## ★ 今後の行事予定

### 2019 年 11 月 17 日(日) 農産展・試食懇親会

北は北海道から南は沖縄まで、全国で活動されている会員の皆様は丹精込めて生産された農産物を一堂に集めて、会員の方は勿論、一般の皆様方にも無施肥栽培の農産物を知ってもらう催しです。また、展示会終了後に無施肥栽培に関する講演会や、無施肥栽培農産物による料理を味わいながら懇親を深める試食懇親会も計画しています。会員の皆様は勿論、流通関係の方や一般の皆様もご参加頂けます。皆様のご参加をお待ちしています。



2018 年 農産展

### 2020 年 3 月 15 日(日) 通常総会・研究報告会・懇親会

会員の皆様にご出席頂き、当会の前年度の活動結果並びにその結果を踏まえた次年度の事業計画や活動予算等をご審議頂く会員総会と、どなたでもご参加いただける、当会の事業の柱であります無施肥栽培の調査研究の成果をご報告させて頂く研究報告会、皆様の意見交換の場としての懇親会を開催します。詳細は決まり次第、お知らせします。奮ってご参加ください。



2019 年 研究報告会

・以上の他にも各種イベントの開催を検討しています。行事の詳細は、開催 1 ヶ月ほど前にご連絡させていただき、ご案内及びホームページでご確認ください。

会報についてのご意見を、郵便、FAX、e-mail でお寄せ下さい。皆様のお力で会報を充実させていきたいと存じますので、ご協力のほどお願い申し上げます。（編集担当）

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町106-2

特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会

e-mail：mail@muhiken.or.jp FAX：075-751-0368

URL：<http://muhiken.or.jp/wp/> Facebook：<https://www.facebook.com/muhiken/>